

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2024.11
No.142



2024年度
複十字シール 図案
デザイン:あさいとおる氏

健康の輪



元気に長生き！健康日本21



健康日本21推進全国連絡協議会

編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

資金寄附者等感謝状贈呈式並びにお茶会



令和6年6月6日、リーガロイヤルホテル東京（東京都新宿区）において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた方々に、秋篠宮皇嗣妃殿下より感謝状が授与されました。

感謝状贈呈式に続いて記念撮影があり、その後お茶会が行われました。資金寄附者の方々となごやかなひとときを過ごされました。

結核予防会へのご寄附には、事業を指名してご寄附をいただく「事業資金」と複十字シールを通して結核全般に対するご寄附をいただく「複十字シール募金」の2つの部門があります。

昨年度は両部門に対して、個人3名ならび6団体より多額のご寄附をいただきました。式当日は、9名の方々が出席されました。

詳細については、結核予防会ホームページ、「寄附金控除・表彰制度」をご参照ください。

<https://www.jatahq.org/headquarters/seal/deduction/>

金沢市から珠洲市へ

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

今年の元日に能登半島で大きな地震があり、その影響を大層案じながら過ごしていた3月中旬に、東京で結核予防全国大会が開催されました。そのレセプションで会った結核予防会石川県支部の専務理事から、被害を受けた能登半島の道路は、健診をおこなうための精密な検査機器を搭載する検診車の走行が難しく、例年春におこなっている奥能登の健康診断を秋におこなう方向で検討していると聞きました。その後、奥能登4市町の健康診断が9月1日の珠洲市から順次おこなわれることになったとの連絡を受け、9月中旬に珠洲市を訪れることになりました。

石川県成人病予防センターにて

健康診断前日の9月14日に、金沢市の結核予防会石川県支部でもある「石川県成人病予防センター」を訪ねました。そして9月上旬から始まった奥能登での健診に携わってきた3名の看護師から、健診の様子について聞きました。珠洲市の健診会場である健康増進センターは、雨漏りがあり、廊下には段差ができていて、輪島市では昨年までの健診会場が避難所となっているために消防署の建物を使用したこと、穴水町の健診会場では建物の周囲の道路に亀裂や段差があり、受診する人の足元の安全にも気をつけていたことなどの話がありました。また、受診した人たちの心身の疲労を気遣い、健診を受けている間だけでも被災者の気持ちに寄り添い、言葉に耳を傾けたいとの思いを語り、優しさが更に伝わってきました。

事務や広報を担当している職員の話も聞きました。大型免許が必要である検診車の運転も担当し、通常の大型車より車高が低い検診車の検査機器が振動に弱いため、前を走る他の職員が乗るバンの走り方を見ながら、注意をはらって運転していると話していました。

続いて翌日に使われる4台の検診車を見学しました。胸部検診車、胃がん検診車、乳がん検診車と子宮頸がん検診車と、備え付けられている医療機器やその使い方の説明を受けました。このように現地を訪問する前に健康診断や検診車について職員から詳しく聞くことができたことは、ありがたいことでした。

石川県助産師会の方々とお会いして

14日の夜には、宿泊先で助産師方とお会いしました。今年4月に金沢市を訪れ、能登半島から金沢市内に避難していた妊産婦とその子どもたちにお会いしたときに、母子の支援をされていた方々です。そのときお目にかかった母親たちと子どもたちは地元（能登）に戻られたと聞きました。また、翌日に訪問する珠洲市の産科医療について、市内には常駐する産婦人科医がいないので、元日の震災後は助産師の資格をもつ看護師が妊産婦のケアをおこなったことや、石川県内で若い助産師たちが活躍していることも教えてくださいました。

金沢市から珠洲市へ

9月15日の早朝、私は金沢市内の宿泊先から「のと里山海道」、「珠洲道路」と主に自動車専用道路を利用して珠洲市へ向かいました。約2時間30分かかる行程でした。

そして同じ頃に、支部職員の乗車するバンと検診車は、金沢市内の石川県成人病予防センターから出発しました。自動車専用道路の一部には、崖の一部が崩落したため緊急に作られた迂回路があり、道幅の狭い箇所や、急なカーブ、道路の凸凹による振動などもあるので、検診車は途中から一般道を利用しました。そのため、検診車の移動にはさらに時間がかかり、8時15分頃に珠洲市健康増進センターに到着しました。



珠洲市健康増進センターに到着した検診車を迎えて

珠洲市健康増進センターにて

今回の健診会場である珠洲市健康増進センターに到着すると、泉谷満寿裕珠洲市長と三上豊子センター長がお迎えくださいました。すでに会場では珠洲市の保健師や看護師が準備を始めていました。そこへ金沢市から移動してきた検診車とスタッフたちが到着し、私も検診車から椅子を降ろすなど、できるお手伝いをしました。スタッフ全体の打合せで健診の手順を確認し、健康診断が始まりました。当日は、100名以上が受診したそうです。

泉谷市長からは、珠洲市全体の約3分の2の住居が全半壊したこと、道路や橋が損壊したため、市の指定避難所にたどり着けず、自主避難所に避難した人も多かったこと、5日の朝に陸路で物資が届くようになったことを伺いました。また、三上センター長は、2日から災害支援ナースが入り、5日の朝になってようやく支援物資を配れるようになって、誰がどこに避難しているかなかなか把握できないため、全戸を順番に訪ね、避難状況がわかる度に市から物資を配布してもらっていた時期もあったと話していました。小さな子どものいる家族は、地震発生後、水が使える安全な場所を求めて、避難場所を転々とするケースが少なくなかったけれども、3月には乳幼児健診が再開し、4月には母子が集まるイベントを開くなど、地元の保健師が活躍していることもお聞きしました。



健診の受付を担当する珠洲市の看護師からお話を伺う

その後に、珠洲市婦人会にもお会いする機会がありました。このように婦人会で集うのは久しぶりだと伺いました。地震直後に断水していた期間は雪を溶かして水を確保していたことや、避難所で手を洗えなかったので手袋をしてお弁当を配る係をしていたこと、またご家族の事情で他の地域へ避難した方からは、珠洲に残って苦勞している人たちのことを思うと心苦しいと率直なお気持ちをお聞きしました。

健康増進センター内の調理室では、3月中旬から8月まで、多いときは1日1500食ほどのお弁当が作られ、指定避難所や自主避難所へ配布されました。その調理にあっていた珠洲市内の飲食店の坂本信子さんなど4人にお会いしました。ご自宅や店舗が損傷し家族と離れて暮らす方もいらして、毎日お弁当を作り、地域の人のために働くことが心の支えになったことも話されていました。



健康増進センター内の調理室横で

また健康増進センターの敷地内にある珠洲市災害ボランティアセンターに立ち寄り、センターの職員や他府県から来ていた大学生などのボランティアに会いました。支援先の調整や、建物の片付けと養生、家財の運び出しなどにあたっていると聞きました。

そして、健康増進センターを出発する前に、三上センター長が2人の若い保健師を紹介してくださいました。子育て中の母親たちは年齢の近い保健師とお話がしやすいこともあるようですと伺いました。

奥能登への思い

東京に戻り、金沢から珠洲を訪れて見た風景や出会った人々、感じたことを『健康の輪』に寄稿するためにまとめていたとき、石川県に発生した線状降水帯により能登地域に大雨の被害が出ていることを報道で知りました。河川の氾濫や土砂崩れによって、再び奥能登の地域が被害を受けました。

石川県成人病予防センターから、復旧した道路が土砂崩れや路面の崩壊で寸断し、9月下旬に予定されていた輪島市や珠洲市、能登町での健診が中止・延期されたと知らせを受けました。また石川県が被害状況をまとめた資料を見ると、健康増進センター付近の道は通行止めになっている場所もあるようでした。支援する人自身が被災している中で、人々の健康や暮らし、教育などを支えるのはどんなに大変なことかと思います。奥能登の人々を思いながら、どうか穏やかに落ち着いた生活を送れますようにと願っております。

2023年度複十字シール募金結果報告

婦人会の皆様には街頭キャンペーンや知事への表敬訪問など、複十字シール運動に多大なご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

2023年度に複十字シール運動を通して、結核予防会の支部・本部に寄せられた募金収入は1億7,777万9,971円でした。

シール、封筒、広報資材等の製作費、運搬費等の諸経費を除いた事業費1億2,007万6,371円の使途は図1の通りです。結核予防の広報や教育資材の作成および研修会や結核予防全国大会の開催等、「普及啓発」に6,570万1,386円、アジア・アフリカの開発途上国の結核対策等の「国際協力」に3,196万5,535円、全国の結核予防団体等の活動支援

「事業助成」に2,185万5,154円、結核の「調査研究」に55万4,296円を使わせていただきました。

日本は2021年より結核低まん延国の水準を維持しておりますが、新登録患者は1万人を超えてお

り、結核の正しい知識の普及啓発の推進が重要な課題となっております。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(事業部募金推進課)

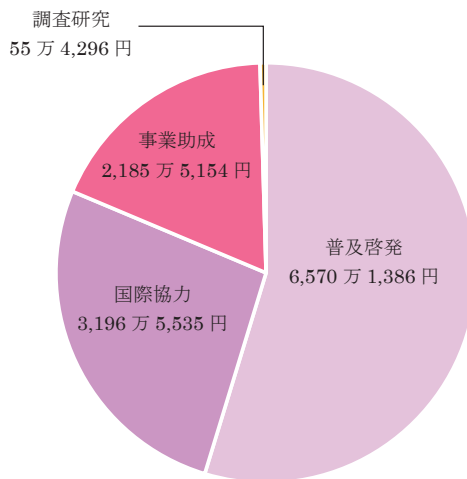


図1. 2023年度 募金の使途内訳

募金収入
1億7,777万9,971円
事業費
1億2,007万6,371円
(諸経費を除く)

複十字シール運動

厚生労働大臣表敬訪問

複十字シール運動の開始にあたり、8月21日(水)、結核予防会より尾身理事長、永田事業部長、全国結核予防婦人団体連絡協議会(以下、婦人会)より山下事務局長が厚生労働大臣へ表敬訪問を行いました。健康・生活衛生局感染症対策部の鷲見部長にお会いし、尾身理事長より複十字シール運動への協力をお願いすると共に、第75回結核予防全国大会で採択された決議宣言文に要望書を添えてお渡ししました。永田事業部長からは複十字シール運動の趣旨について、山下事務局長からは婦人会の取り組みについて説明しました。当日は、感染症対策部感染症対策課の荒木課長をはじめとする職員の皆様にも多数ご出席いただき、終始和やかな雰囲気の中で行われました。

全国では婦人会と結核予防会支部が連携して各都道府県の知事等への表敬訪問を実施し、複十字シール運動の趣旨の説明と運動への一層のご協力をお願いしていたいております。

2021年に人口10万人あたりの結核罹患率が9.2を達成し、日本は結核低まん延国となりました。2023年の結核罹患率は8.1であり、前年の8.2に引き続き10以下を維持しています。しかし、1日に28人が結核を発病しており、結核はまだ身近な病気です。また、結核

は他の呼吸器感染症と同様に人から人に感染する病気なので、予防と重症化する前の早期発見が大切です。特に新登録患者数の4割を占める80歳以上と20歳代の8割を占める外国出生者の対策が重要な課題となっています。また、世界では2022年に約130万人が結核で亡くなっています。

今後も結核撲滅のため、複十字シール運動を通して婦人会、全国支部と協力して国内外の結核対策に努めてまいります。



複十字シール運動

知事表敬訪問

青森県結核予防婦人会
会長 外崎 れい子

「複十字シール運動」を前にした、7月29日（月）、公益財団法人青森県総合健診センター

（結核予防会青森県支部）石橋豊専務理事・事務局長、須藤昭彦常

務理事・事務局次長、黄金崎俊典総務部長と結核予防婦人会役員3名で宮下宗一郎知事を表敬訪問。

私から表敬者を紹介した後、昭和27年から始まった「複十字シール運動」の趣旨や、目的を、募金活動に対する御支援と御協力をお願いし、令和4年、日本で新たに結核患者として登録された患者数や、人口10万対比の結核罹患率が全国では8.2青森県は7.5に減少し

日本は結核低位まん延の水準を維持していること、70歳以上の高齢者と20歳代の外国出生者の若者の対策が重要な課題である事等を説明。

大型複十字シールと記念品としてワンコインワンポロシャツを贈呈、着用していただき記念撮影。宮下知事と固い握手を、日頃の活動に対し労いの言葉を頂きました。🐼



写真向かって左 宮下宗一郎知事

写真右 右から 濱辺緑副会長・筆者・川村優子副会長 石橋豊青森県総合健診センター（結核予防会青森県支部）専務理事・事務局長 須藤昭彦専務理事・事務局次長 黄金崎俊典総務部長



宮下知事を囲んで記念撮影する結核予防婦人会役員と筆者（左から2人目）

愛知県地域婦人団体連絡協議会
会長 山田 久子

全国一斉複十字シール運動が8月1日（木）～12月31日（火）まで実施されます。それに合わせ、8月2日（金）に、牧野利香愛知県副知事を表敬訪問しました。

結核予防会愛知県支部長（愛知県健康づくり振興事業団理事長）、愛知県地域婦人団体連絡協議会会長・副会長の3名と県側からは保健医療局長、感染症対策課長2名が同席され、複十字シール運動の

趣旨を説明、運動を通してより多くの一般住民の方に結核の現状を知っていただき、定期健診の受診が大切であることや、各市町村や保健所関係機関と連携をとりながら、一層の普及、患者支援など結核対策の実施が重要であることを報告し、お願いしました。

副知事からは「愛知県は全国を上回る状況が続いております、結核の知識普及と県民の予防意識の高揚を図るため、複十字シール運動への協力はもちろん啓発活動に取り組みます。引き続き結核予防活動につとめ

ていただきたい。」

とお言葉をいただきました。

今後もより一層結核予防活動に取り組んでいきたいと思いました。🐼



牧野利香愛知県副知事（左から2人目）と一緒に記念撮影

和歌山県健康を守る婦人の会 会長 宗 眞紀子



9月27日、和歌山県健康を守る婦人の会の会員が、結核予防会和歌山県支部長及び支部員と

共に、岸本周平知事を表敬訪問いたしました。この日は、早朝より、結核予防週間に合わせて、駅周辺で街頭啓発を行いました。

結核は、決して過去の病気ではなく、日本でも年間一万人以上が

発病しているのです。

世界に目を向けると、子ども達をはじめ、多くの方が感染しています。最近、高齢者の罹患率が高くなっていることから、私達が長年続けている複十字シール募金活動も、更に啓発の輪を広げたいと知事に申し上げました。知事からは、今年度は特に県民の健診率の向上に力を入れたいとお話をいただきました。

婦人会としても、結

核予防はもちろんのこと、特に高齢者の健診率アップに取り組みたいと気持ちを新たにしました。

短時間でしたが、大変有意義な訪問となりました。🐱



広島県地域女性団体連絡協議会 会長 弓場 美代



広島県地域保健医療推進機構、広島市地域女性団体連絡協議会、広島県地域女性団体連絡

協議会の3者が、令和6年7月5日（金）11時より、全国一斉複十字シール運動に係る湯崎英彦知事

表敬訪問を実施いたしました。

「私たちは、結核予防会広島県支部として活動し、結核予防について広く県民の皆様へ伝え一層の普及を図ることを目的に、毎年8月1日より12月31日まで、複十字シール運動を展開しております。」と説明し、この運動についてのご理解、ご協力をお願いいたしました。最後に私が、再度「複十字シール運動協力のお願い」を読み上げシール運動の概略、結核の現状を

簡単にご説明いたしました。🐱



左から、広島市地域女性団体連絡協議会山田会長、湯崎知事、弓場、（公財）広島県地域保健医療推進機構木村常務理事

鹿児島県結核成人病予防婦人会 会長 大迫 茂子



今年も8月1日より県内一斉に複十字シール運動への理解と協力、複十字シール運動への

募金活動、結核・肺がん・COPD（慢性閉塞肺性疾患）を含む胸部

に関する疾患を失くす運動として啓発活動が始まりました。

運動開始に合わせて、8月8日に鹿児島県塩田康一知事へ私を始め、県地域女性連役員と鹿児島県民総合保健センター職員と共に表敬訪問をいたしました。

結核は過去の病気ではなく、徐々に減少しているものの現在でも感染症の中では鹿児島県の結核罹患率は全国平均よりはやや高く

推移しています。また、複十字シール運動の実績が右肩下がりであることなどの現状報告をし、これから鹿児島中央駅で受診者増へ向けての街頭啓発活動をするを話しました。

知事も私たちの話を熱心に聞いてくださいました。感染してもすぐ発症するのではなく、70歳以上高齢になってから発病することや飛沫感染が主になるので、十分気を付けて活動を頑張って下さいと激励をいただきました。

これからも各市町村、地域での結核成人病予防婦人会の地道な啓発活動が必要だと改めて感じました。🐱



塩田知事との歓談の様子



鹿児島中央駅での街頭啓発活動

複十字シール運動

キャンペーン活動報告

山形県結核成人病予防婦人団体
連絡協議会
会長 五十嵐 雪子



今年も複十字シール募金運動の時期がやってまいりました。例年山形県では、各構成団体

内での会議・研修会などにおいての募金活動や、自治体職員への募金協力のご依頼が主なものとなっております。

また、例年9月末に商業施設を会場に開催される「やまがた健康フェア」において事務局がブースを出展し、複十字シール運動についての広報活動を行っております。土日で開催されるため来場者の年齢層は広く、かわいらしいシールぼうやが目につくのか、お子さんに手をひかれてくる親子連れの姿も見られました。そこで『結核の常識』などをもとに結核がまだまだ身近な病気であることや、皆様からの募金が国内外の結核を始めとする肺疾患をなくすための啓発資材や国内外での活動の支援となることを訴えております。やはり結核が身近であった年代の方と比べると、若い世代の方には昨今の新型コロナウイルス感染症ほどの危機感を持たれていないと実感することも少なからずあります。

結核を発病した人の約4割が80歳以上の高齢者とのことですが、山形県は全国的にみても三世帯同居率が高く、家庭内の健康を守るためにも結核に関する情報の啓発は欠かせないものと感じます。今後も継続して訴えていくことの重要性を信じ啓発活動を続けてまいりたいと思っております。🐱



戦後の思い出と今後

(一財)岐阜県地域女性団体協議会
会長 竹中 昌子



私が小さい頃は、結核は「不治の病」と恐れられ、皆が結核に対する恐怖感が強く、結核患者の家に行くな、その家の子とは遊ぶなどと言われていました。感染が咳・呼吸で容易に広がることから、咳やくしゃみをすると、飛沫感染を恐れて皆が逃げていきました。

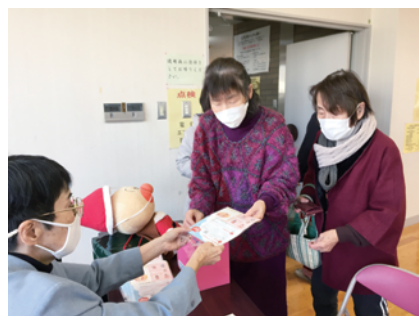
物が豊かな現在では想像もつかないと思いますが、当時は何もなくて本当に貧しかったのです。栄養も取れず、痩せて青白い顔の結核に罹った人は、治る希望もなく可哀そうでした。ある日、家族に結核患者がいる近所の人から医者へ薬を貰いに行ってお使いを頼まれました。交通手段も悪

く、隣村まで自転車で行っていました。その後その方は快方に向かわれ、定年まで教師を務められたので良かったと思っています。

結核患者数の減少は嬉しいですが、今でも咳やくしゃみ感染する病で、まだ根絶には至っていません。しかし現在は薬を飲めば治る病です。私たちは更に理解を深めて複十字シール募金活動を進めていきたいと思っています。

活動する中で忘れられない出会いがありました。中学生のグループに複十字シール運動の目的や募金の使い道を説明すると、自分のお金が世界まで届けられて役立つことにすごく感動して、次々と仲間呼びかけて募金に喜んで協力してくれたのです。

医学の進歩によって薬をきちんと飲めば治ること、全世界の人々にこの知識を広めて私たちが結核の根絶にむけて努力を重ねていきたいと思います。🐱



新会長就任ご挨拶

特定非営利活動法人
岩手県地域婦人団体協議会
会長 館澤 敏子



令和6年度の
岩手県地域婦人
団体協議会通常
総会において会
長に就任いたし
ました館澤敏子

と申します。

私たちの重要な活動の一つとして総会等で岩手県予防医学協会のご指導の下、結核予防に関する研修を深めて参りました。また、毎年複十字シール募金活動、県知事表敬訪問を行い県民へのアピールを支援していただいております。

2025年には結核予防全国大会が岩手県で開催されます。

これを機に更に取り組みを充実させたいと考えています。

複十字シール運動はもちろん結核予防に対する啓蒙活動、健診受診の奨励など私たちのできることを積極的に進め、2022年度に達成した「低まん延国（人口10万人当たりの罹患率10.0未満）」であることを継続できるよう努めて参ろうと思います。

結核予防婦人会秋田県連合会
会長 吉田 萬里子



令和6年度結
核予防婦人会秋
田県連合会会長
に就任いたしま
した吉田萬里子
と申します。会

長としての重責に身の引き締まる思いですが、先輩諸氏、秋田県支部のご指導、会員のご協力を得ながら活動を継続してまいりたいと思います。

結核は古くて新しい病気だとも言われておりますが、私たちが生まれる以前からの感染症でもあります。昭和40年、秋田県連合会設

立以来、結核検診やその他の健診の受診勧奨、結核予防のための「複十字シール運動」の普及に取り組んでまいりました。また、知識向上のための研修会開催及び県外大会・研修会への参加など長年にわたり推進継続している状況であります。8月に秋田県知事を表敬訪問し、複十字シール運動等への協力を依頼し、9月には「全国一斉複十字シール運動街頭キャンペーン」を実施いたしました。今後とも知識を積み重ね結核予防活動の啓発に努めてまいります。

特定非営利活動法人
東京都地域婦人団体連盟
会長 山下 陽枝



東京地婦連は
長い間ご尽力い
ただきました谷
茂岡正子会長が
亡くなられ、今
年度より私が引

き継がせていただきましたので、何卒宜しくお願い致します。

当会では結核予防については、いつも関心を持ち複十字シール運動の普及にも力を入れております。9月には東京都知事に表敬訪問を行い、都の方々とも色々とお話しさせていただき、最近の現状のなどを伺いました。

1952年にシール運動が始まった時から、父が大変協力をしていたため大型のシールが送られて来ると毎回シールの絵が楽しみで、今回は何の絵かなと私が全部もらっておりましたことを懐かしく思い出し、そして地婦連に入会してからは、私が引き継ぐことが出来てとても嬉しく思っております。

結核は、1日に32人の患者が発生し5人が命を落としている日本の重大な感染症です。日本では、1年間に1万人以上が結核を発病しており世界では総人口の4分の1が感染しています。また、結核

を発病している人の約4割が80歳以上の高齢者、そして外国生まれの患者が約1割と言われております。結核は早期に発見し確実に治療することが大切であることから、油断せず、地道な取り組みが必要です。東京地婦連においても結核の無い世界をつくるため、複十字シール運動による募金活動に力を入れて行きたいと思っております。

神奈川県地域婦人団体連絡協議会
会長 平本 正子



今年度より神
奈川県地域婦人
団体連絡協議会
会長に就任いた
しました平本正
子でございま

す。どうぞよろしくお願いいたします。

神奈川県では例年、結核予防運動の一環として複十字シール運動をはじめ、街頭キャンペーン・県知事表敬訪問・啓発活動を実施しております。

結核予防婦人会の研修会への参加を通して、会員への啓発や世界・国内の感染症の現状を知ること大切な活動となっています。

結核予防キャンペーンの折等に、～結核は昔は“不治の病”と言われていましたが、今は大丈夫～という風潮が聞こえてきます。近年高齢者施設での集団発症とのニュースにふれるなか、発症者が増加していることへの認識がまだまだ低いと感じ、これからますます啓発活動に力を注いで行きたいと思っています。

8月に実施している県知事表敬訪問等では、複十字シール運動の重要性をアピールし、県・結核予防会・婦人会が連携して啓発活動を行っていききたいと思います。

山梨県愛育連合会 会長 石原 まゆみ



令和6年度山梨県愛育連合会の会長に就任致しました石原まゆみです。皆様どうぞよろしく

お願いいたします。

令和6年2月7日、8日と第28回結核予防関係婦人団体中央講習会に参加させていただきました。講演並びに情報交換会での多くの学びから、役員会等で共有を図ることが出来ました。私自身も戦後間もなく母が腎臓結核を罹患し、右腎臓摘出後、私をこの世に誕生させてくれました。

本年度、山梨県健康管理事業団の事業として、結核・呼吸器感染症予防週間の街頭キャンペーンに参加し、県民に広く、結核に関する知識を深め、結核予防や早期発見への意識の醸成や推進を図るため、普及啓発し、複十字シール募金活動の協力を実施いたしました。

連合会に於いても、地域での声かけのひとつのテーマとして取り組んで参りたいと考えております。🐱

静岡県結核予防婦人会 会長 井出 和子



本年7月より、会長職を拝命し務めさせていただいております。

近年、感染症に対する社会情

勢は目まぐるしく変化しました。人類は、これまでの歴史の中でも感染症と共に生きてきたのだと感じます。常に変化しつづける疾病に対し、研鑽を積み続けること、それを周囲の方々と分かち合うことは重要です。日々、活動を行っている中で、「結核ってまだあるの?」というご意見をいただくことが多々ございます。また、全国的にも同じ状況はあると思いますが、当会も年々組織の縮小化が進みつつあります。もっと結核のことを知っていただきたい、組織の存続も望む中、今後は、これまで以上に若い世代の方々への普及啓発活動を視野に入れていきたいと考えています。医療系の学校や、その他各種教育現場における普及啓発、また、参加者がより楽しめる活動を模索し、結核の知識の種を蒔いていきたいです。

先人の方々より受け継いだ「結核予防の輪」を大切に、結核をはじめとした感染症予防対策の一助を精一杯努めて参る所存でございます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。🐱

兵庫県連合婦人会 会長 谷勝 公代



今年度より兵庫県連合婦人会の会長に就任いたしました谷勝公代と申します。どうぞよろ

しくお願いいたします。

兵庫県では、県内婦人会の連携をはかり、複十字シール運動を中心に結核予防の推進や啓発活動に努めて参りました。

9月には、滋賀県地域女性団体連合会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の共催の元、令和6年度近畿地区結核予防婦人団体幹部講習会が開催され、結核および呼吸器感染症の正しい知識を学びます。

私達婦人会員は『結核の常識』を手に取り、世界における結核の根絶を目指します。

ただ恐れるのではなく、結核について知識を深め、今出来ることを実行しています。社会経済活動が正常化しつつありますが、経済状況は物価高の継続や為替変動の影響により、引き続き予断を許さない状態です。皆でしっかりと手をつなぎ、地域社会に早期発見・結核予防の重要性を伝え、啓発活動を拡げて参りたいと思います。どうぞご指導お願いいたします。🐱

結核・呼吸器感染症予防週間ポスターのご紹介



社会そして世界全体での取り組みが重要です

結核・呼吸器感染症予防週間 9/24~9/30



このポスターについてのお問い合わせはこちらまでお願いいたします。
〒103-0001 東京都千代田区千代田1-2-12 公益財団法人結核予防会 東京本部
TEL: 03-3292-9288 e-mail: fukyu_hq@jata.or.jp



結核予防会では「結核・呼吸器感染症予防週間のポスター」を作成し、お配りしております。ご希望の方は、結核予防会ホームページから申込書をダウンロードいただき、お問い合わせください。

<お問合せ先>

公益財団法人結核予防会 事業部普及広報課
電話：03-3292-9288 FAX：03-3292-9208
MAIL：fukyu_hq@jata.or.jp

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- 高品質・適正価格であること。

製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。

- 無香料・無着色であること。

肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。

- 全成分・分量・配合目的を公開すること。

品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。

- 製造年月をすべての容器に表示すること。

誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。



- 環境問題に配慮すること。

毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。

ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
私たちの理念です。

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD009-TB-2103-1